

●IBM「Smarter Cities Challenge」に札幌市が選定されたことについて

IBM（本社：米国）は、持続可能な社会を構築するため、エネルギー管理や交通等の都市を支えるシステムの効率化・最適化を図る「Smarter Cities」を提唱しており、社会貢献としてその具体化を図るためのプログラム「Smarter Cities Challenge」を昨年11月から開始しました。

札幌市は、温暖化対策をテーマに同プログラムに応募し、40を超える国の200以上の都市による提案の中から、国内では唯一、世界でも24都市（17カ国）の1つに選定されました。

1 「Smarter Cities Challenge」とは

IBM 本社の社会貢献事業として、平成23年からの3年間で、世界の100都市のスマート化に5000万ドル相当の人的支援をするプログラムのこと。

同社が選定した各都市（約30都市／年）に対して、社員をコンサルタントとして派遣し、エネルギー、交通、医療、教育など各都市が抱える課題の解決に向けた提案を行うもので、1都市あたり25万～40万ドル相当の人的支援とされている。

※ IBMが提唱する Smarter Cities

IBM（米国）が、平成21年から推進している新たなビジョン。持続可能な社会を構築するため、都市を支えるシステム（エネルギー管理、交通、保健・医療等）のスマート化（＝効率化・最適化）を図り、“もっとも暮らしやすい環境をもっとも多くの人々に提供する”ことを目指す。

日本IBMは、平成22年6月18日に日本で初めての「Smarter Cities 国別フォーラム」を札幌で開催し、上田市長が基調講演（演題：「環境首都・札幌」を目指して）を行った。

2 札幌市が応募したテーマと背景

(1) テーマ

札幌市における効果的な温暖化対策の推進について

(2) 背景

札幌市温暖化対策推進ビジョンに掲げた温室効果ガスの高い削減目標（2020年までに90年比25%削減）の達成に向けては、市民、事業者、行政による主体的な温暖化対策の実践が重要であるが、今後の取り組みを推進する上で、同プログラムを活用することが有益であると判断した。

3 札幌市が期待する効果

札幌市の気候、自然条件、温室効果ガスの排出状況等を踏まえた、より効果的な温暖化対策の提案を期待したい。また、併せて、同プログラムに、国内で唯一、世界で24都市の1つに選ばれたことによるシティプロモート等の副次的な効果も期待したい。

4 今後の予定

コンサルタントの受け入れ人数や実施時期等の諸条件については、協定書等の書面で取り交わす予定。

5 IBM（米国）が選定した都市（17カ国、24都市）

- | | |
|-----------------|-------------------|
| ○チリ：アントファガスタ | ○日本：札幌 |
| ○ルーマニア：ブカレスト | ○オーストラリア：タウンズビル |
| ○中国：四川省成都市 | ○南アフリカ共和国：プレトリア |
| ○タイ：チェンマイ | ○アメリカ |
| ○インド：デリー | コロラド州、ボルダー |
| ○カナダ：エドモントン | ウィスコンシン州、ミルウォーキー |
| ○オランダ：アイントホーフェン | ルイジアナ州、ニューオーリンズ |
| ○イギリス：グラスゴー | ニュージャージー州、ニューアーク |
| ○メキシコ：グアダハラ | ペンシルベニア州、フィラデルフィア |
| ○フィンランド：ヘルシンキ | ロードアイランド州、プロビデンス |
| ○インドネシア：ジャカルタ | ミズーリ州、セントルイス |
| ○フランス：ニース | ニューヨーク州、シラキュース |
| ○ブラジル：リオデジャネイロ | |

問い合わせ先

環境局環境都市推進部環境計画課

小野、森 電話：211-2877